

# 湖国で輝く 企業を 訪ねて



## デジタルファブ리케이션に着目 オンリーワンの革製品を提案

旅が好きで、若い時にバックパッキングでアジア諸国などをまわった田中秀樹さんは、その後、旅行会社に入社し、6年間営業マンとして働いた後、ものづくりの世界に飛び込みました。

革のバイク用品を製造する京都の会社に14年間勤務して、革の裁断、縫製、パターン作り、修理などすべての作業をマスターした田中さんが、独立を考えるようになったのは、「中小企業までが海外生産に切り替えるようになっていくと、このままでは国内のものづくりが廃れてしまう」と、日本のものづくりの現状に危機感を抱いたからだと言います。

「アジア諸国で生産されているものと、同じ製品を作っているだけでは勝負できない。ものづくりの仕事を国内に残していくためには、何か独自性のあるものを作らなくては」と考えていた時に会ったのが、クリス・アンダーソンの著書『MAKERS—21世紀の産業革命が始まる』でした。デジタルファブ리케이션と従来のもので作りを融合すれば、新しいものづくりができるのではないかと模索が始まりました。



# 人から人へ、**思い**をつなぐ “B to I”のものづくり

□ Cogocoro □



田中 秀樹氏

本社／滋賀県近江八幡市多賀町569番地  
設立／平成26年11月  
事業内容／オンリーワンのレザーアイテムの製造・販売  
URL／<http://cogocoro.com/>



デジタルファブリケーションは、コンピュータと接続された工作機械を用いて、デジタルデータをもとに紙、木材、アクリルなどの素材を加工し、成型する技術です。消費者一人ひとりが欲しいと思うオンリーワンの製品を、完全オーダーメイドで作ると手間も費用もかかりますが、レーザー加工機や3Dプリンターを使うことで、比較的

低価格で制作できるため、さまざまな分野での応用が広がっています。

「B to C（顧客）からB to I（個人）」が、次世代のものづくりのキーワードになると考えたという田中さん。大阪にあるファブラボ

(fabrication laboratory) で習得したレーザー加工技術で、子どもの絵や文字、手形や足形、思い出の写真、自分や贈る相手の名前などを、革の表面に焼印のように彫刻して、オンリーワンの製品を作るビジネスを立ち上げることを決意します。

子どもの描く絵や文字は、成長の記録や思い出が詰まった宝物で、これをバッグやキーホルダーなどにレーザー彫刻をすれば、思い出を未来につなぐことができ、プレゼントと一緒に心も贈ることができます。そして、革は経年変化を楽しめる素材で、使えば使うほど愛着が湧き、長い間使い続けられる素材です。そんな、革製品に新しい価値を吹き込むことで、今までに無い感動を提供したい。

そんな思いで、田中さんはこれを『思いをつなげるギフトレザー“Cogocoro”』と名付けました。

## ものづくりを通して途上国の子どもたちを支援

オンラインを使った通信大学“ビジネス・ブレイクスルー大学”で、起業に必要なビジネススキルについて学んだ田中さんは、工房の立ち上げにクラウドファンディングを活用することにしました。自らのアイデアをネット上でプレゼンテーションするための動画を作成し、資金集めを行ったほか、創業補助金を申請してレーザー加工機を購入しました。

「立ち上げの時に銀行と信用保証協会に支援をもらい、昨年、近江八幡市のあきんどの里に未来皮革工房を開設することができました」と田中さん。「実績はないけれど、とにかくがんばっていこう」と、気持ちが引き締まったと当時を振り返ります。

現在、売上のメインを占めるのが、さまざまなハンドメイド製品を紹介するウェブサイトからの注文で、お客様とメールや電話でやりと



りをして、フォトショップやイラストレーターを使ってイメージ画像を作って送り、そこから制作に入ること、お客様の要望にあわせたオリジナル革製品を作ることができます。

環境に配慮した植物タンニンでなめした国内産の革を材料に、一つひとつ丁寧に手づくりされた製品なので、長く愛用できるうえ、田中さんは修理やメンテナンスも行っています。また、以前から取り引きのあった顧客からの注文や、企業向けのサンプル制作や受託製造など、さまざまなニーズに柔軟に対応できるのも田中さんの強みです。

ギャラリーとショップを兼ねた工房では、高島帆布を使ったトートバッグや、革の小物なども販売されているほか、購入した製品に自分で名前を入れることもできます。企業のイベントなどで開催する、レーザークラフトのワークショップが好評なことから、今後は工房でも手づくり体験のメニューを充実させていきたいと考えられています。

田中さんは、途上国で保健医療の仕組みづくりに取り組むNPO法人「HANDS」と一緒に、“Cogocoro Worldプロジェクト”を立ち上げ、ものづくりを通じて途上国の子どもたちを支援しています。パプアニューギニアとケニアの子どもたちが描いた、動物や植物の絵をレーザー彫刻した時計やバッグ、キーホルダーなどを販売して、売上金の一部を子どもたちを支援する活動資金に当てるといいます。

新しい技術やアイデアを活用しながら、「人と人、心と心をつなげ



るものづくりができれば、安価な海外製品に対抗していけるのではないかと」という田中さんのことばから、日本のものづくりの未来に希望の光を見ることができるとはいいのでしょうか。

## 企業ポリシー

- デジタルファブリケーションなどの新しい技術を使い、今までにはない新しい価値を提供することにより、日本のものづくりを未来に残す。
- 思いを伝えるオンリーワンのものづくりを提案し、感動を与える。
- 滋賀から魅力あるビジネスプランを発信する。

## Message

### 新しい発想、新しい価値を加えながら、ものづくりの伝統を未来へつなぐ

デジタルファブリケーションなどの技術を使うことにより、今までにない新しい価値を持った製品をスピーディーに作ることで、日本のものづくりの灯を消さずにすむことができるのではないかと考えています。

インターネットを使って、海外に日本の手づくり製品を販売することができれば、地方でも充分ビジネスとして成り立つし、人口減少に悩む地方で仕事を創出できれば、移り住む人も増えるはずですよ。

滋賀にはさまざまな優れた伝統的な技術があるのですが、残念ながらブランド力が弱いと思います。

デジタルファブリケーションは、試作品などをスピーディーに作るのが得意な機械です。そして、これから、IoT(モノのインターネット)を含め世界中で新しいものづくりが進んでいくので、県下から世界へ発信できるような、今までにない製品を作っていきたいと考えています。

